



# 臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

安全かつ有効な新しい薬や医療機器がより早く  
患者さんのもつに届くように！！

[当法人評議員]

杏林大学医学部附属病院

浅間 泉 [看護師]

「治験」とは、厚生労働省に「医薬品」「医療機器」としての承認を得るための成績を集めることを目的として、承認前の薬や機器の有効性や安全性を調べたり、既に承認済みの薬について、新たな適応症や用法・用量の有効性や安全性を調べる臨床試験のことです。「治験薬や治験機器」は有効性と安全性が確かめられてはじめて「薬・医療機器」として世に出ることになり、治験は通常の治療と異なり、研究的な側面が伴います。私たちが現在使用している薬や医療機器、標準治療は、このような臨床試験を経てその効果が確認されてきました。これは、臨床試験に参加していただいた患者さんのご協力の賜物であり、病気の治療方法が進歩するためには不可欠のものです。

現在、私は臨床試験管理室に在籍し、治験コーディネーター業務と管理業務に携わっています。治験は国際共同試験が大半となり、ますます複雑化、繁雑化する中での治験コーディネーターの業務は、治験のスケジュール管理や服薬指導、有害事象発生時の患者ケア、治験検体の準備、患者さんの臨床データを入力する症例報告書作成やIRB(治験審査委員会)に報告する書類作成の補助業務など多岐に渡ります。DPP4阻害薬やSGLT2阻害薬等も治験を実施し、承認され発売されました。当時他施設で試験を担当した治験コーディネーターからは、食事負荷試験を実施し頻回な血糖測定を規定時間内に測定し、時間に追われたエピソードやフリースタイルリブレの医療機器等の市販後臨床試験では、皮膚接着面の対応に苦労したエピソードも聞きました。私は、昨年医療機器治験を担当し、糖尿病足潰瘍の患者さんと関わりました。PRP(多血小板血漿)療法といって一般にも知られていますが、患者さん自身の採血を活用して創傷治癒が促進される効果をみる試験です。外来通院のタイトなスケジュールで実施し、協力頂いた患者さんからは、感謝の言葉を頂きました。担当した治験薬や医療機器が承認となり、発売されることはかけがえのない喜びであり、誇りでもあります。治験コーディネーターは、未来に繋がる職業であると思っています。しかしながら、新薬や機器開発の治験業務に欠かせない治験コーディネーターという職種は知名度が低く、世間一般に、より周知されることを望んでいます。そして、承認されるまでは長い年月と莫大な費用がかかり、承認される試験は僅かですが、安全かつ有効な新しい医薬品や医療機器がより早く患者さんのもつに届くように願っています。

＜治験の流れ＞



＜治験コーディネーター＞



読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。  
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

**問題** 血糖降下薬と副作用の組み合わせで誤っているのはどれか、2つ選べ。(答えは7ページにあります。)

1. α-グルコシダーゼ阻害薬 - 重篤な肝機能障害
2. ビグアナイド薬 - 消化器症状
3. チアゾリジン薬 - 乳酸アシドーシス
4. DPP-4阻害薬 - 頻尿
5. SGLT2阻害薬 - 紅斑などの皮膚症状



## 報告

## 第23回西東京糖尿病心理と医療研究会

日時: 令和元年10月19日(土)  
場所: 三鷹産業プラザ

[当法人理事] 朝比奈クリニック 朝比奈 崇介 [医師]

令和元年10月19日三鷹産業プラザで、天理よろず相談所病院の北谷真子先生と奈良県立医科大学の皆藤章先生をお招きして第23回西東京糖尿病心理と医療研究会が開催された。今回も前回に引き続き北谷先生がファシリテーターになり「体感！糖尿病医療学的症例検討会」を行った。これは演者に医療者と患者の関わりを詳しく発表してもらい、聴衆がそれに対する感想や意見などを数人一組になってディスカッションし、発表するワークショップ形式の検討会である。今回は「未治療期間が長く、視力障害が進んでしまった患者さんとの6年間」を熊倉医院 認定看護師塚本万里子先生に症例提示頂いた。硝子体出血をした視力障害を持つ患者さんに、恐らくは塚本先生自身の思い入れの強さも手伝って、特にフットケアというケア方法を通じて心を通わせていく。チームの中で、関わりを好まない看護師の存在、足や着衣の整容が保たれている時とそうでない時とがそのまま患者さんの精神状態を反映していることなど、人を見る目の視点を学ぶ所が多かった。



朝比奈先生

第2部は「糖尿病医療学とは」というタイトルで皆藤章先生からご講演頂いた。人生は即ち関係を生きることであって、医療者が患者との関係を生きるとは患者のみならず医療者自身が生きることにつながる。糖尿病そのものが人生の問題ではなく、誰しものが生きて行く上で何らかの課題を背負っている、その一つではないだろうか。そのことは患者の心の深みまで降りていって患者が何を体験しているのか留まって一緒に経験しなければわからない。よほどのことがあっても希望を失わない人間になれば、目の前の問題の向こうにあるものを信じてケアをしなさい、というお話を頂いた。また来年の秋にも糖尿病医療学的検討会を中心に据えた第24回心理の会を開催する。その時にも今回のような大勢の参加者と共に白熱した議論を行いたいものである。

## 報告

## 第24回糖尿病療養担当者のためのセミナー

日時: 令和元年10月20日(日)  
場所: 東京経済大学

2019年10月20日に、『第24回糖尿病療養担当者のためのセミナー』が開催され、147名の方々にご参加頂きました。当セミナーは午前が講演会及びシンポジウム、午後は昼食セミナー(講義)及び分科会(グループワーク形式中心)の構成となっています。

午前の部では、まず今年の学会で報告した、当セミナーの研究内容の発表が行われました。次に2つの特別講演を実施し、『メディカルスタッフに必要なDKDの知識～糖尿病教育とDKD～』と題して腎臓専門医の立場から日本医科大学多摩永山病院の金子朋広先生に、そして糖尿病専門医の立場から高村内科クリニックの植木彬夫先生よりそれぞれご講演頂きました。次にシンポジウムを開催し『DKDの知識を糖尿病患者教育にどう活かすか』について栄養士、薬剤師、健康運動指導士、看護師、医師の立場からそれぞれご講演いただきました。職種ごとの取り組みを分かりやすくご紹介いただき、非常に興味深い内容でありました。

午後の部では、昼食セミナーにて専門の先生方による講義形式で、糖尿病治療に関連した幅広い情報提供が行われました。その後の分科会では、全員参加型のグループワーク等を通じ、職種・施設の壁を越えての活発な意見交換や情報共有の場となりました。参加して頂いた皆様には、当セミナーを通じて得られた『学び』や『気づき』が、今後の診療の一助となる事を切に願っております。



## 報告

## 第3回チームで学ぶ糖尿病ワークショップ

日時: 令和元年10月27日(日)  
場所: 立川相互病院横 講堂

令和元年10月27日(日)に立川相互病院にて、「第3回チームで学ぶ糖尿病ワークショップ」が開催されました。今年も徳島大学・黒田暁生先生をお招きして「我慢できず、ついつい食べてしまうものに関する応用カーボカウント」をテーマにご講演いただきました。そして今年50名近くの方にご参加いただくことができました。

まずご講演①の「カーボカウントの基礎」の講座では、カーボカウントをこれから勉強していきたいという方にも分かりやすいカーボカウントの基本的な考え方についてご講演いただきました。ご講演②の「応用カーボカウント」の講座では、カレー・かつ丼等、管理が難しいけどついつい食べてしまいたくなるものにまつわるカーボカウントをご講演いただきました。最後のグループワークセッションでは、この会では初めてとなる「ワールドカフェ」という手法を用いて、参加者の皆様にディスカッションしていただきました。過去の参加者の方々からのアンケート結果より、「他職種や他施設の取り組みが知れて勉強になった」という感想が多くあった為、今回この手法を採用致しました。今回は「今日の講演を聞いて、チーム医療にどのようにいかせるか?」というテーマをもとにディスカッションしていただき、結果として、「他施設・他職種情報を多く得ることができて勉強になった」という肯定的なご感想が多く、満足度の高いセミナーとなりました。



## 報告

## 第52回糖尿病食を作って食べて学ぶ会

令和元年10月29日(火)立川市女性総合センターアイム  
令和元年11月29日(金)府中市市民活動センタープラッツ

[当法人会員] 登録管理栄養士 伊藤内科クリニック 深田 かのり [管理栄養士]

第52回「糖尿病食を作って食べて学ぶ会」を10月29日立川アイム、11月29日は新しい施設、府中駅直結のプラッツにて開催し、計33名(うち男性4名)の参加がありました。今回は「簡単レンジ調理で秋の食材を美味しく食べよう!」というテーマで以前好評だったレンジを使った献立を作りました。また資料を使って電子レンジの使い方をおさらいしました。調理実習は、「十六穀米入りごはん」「鮭の紙包みレンジ蒸し」「大根サラダ」「具だくさんみそ汁」季節のさつまいもを使った「芋ようかん」を実習しました。

## 第52回メニュー

- ・十六穀米入りごはん
- ・鮭の紙包みレンジ蒸し
- ・大根サラダ
- ・具だくさんみそ汁
- ・芋ようかん

「野菜がたくさんでお腹いっぱい

になった」「話だけでは実感できなかったが味付けがどのくらいかよくわかった」「ごはんをこんなに食べられるとは思わなかった」「とてもおいしかった」「はじめて参加したがとても楽しかった」などの声が聞かれ、和気あいあいとした楽しい実習になりました。次回第53回調理実習は、7月立川、8月府中にて開催いたします。ぜひ患者様にお声をかけていただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

## 第52回

## 調理実習



## 報告

## 第12回ブルーライトアップ スカイトワー西東京

日時:令和元年11月9日(土)

場所:スカイトワー西東京

[当法人評議員] 実行委員長 東京医科大学八王子医療センター 松下 隆哉 [医師]

## 1.はじめに

2019年11月9日第12回ブルーライトアップスカイトワー西東京を開催しました。IDFとWHOが定めた11月14日の世界糖尿病デーのシンボルマークのブルーサークルにちなんで、スカイトワー西東京でブルーライトアップを行い、今回は運動療法をテーマに2名の講師により、理学療法士と医師の立場からの特別講演が行われました。

## 2.講演

○理学療法士から「自宅で3分3S運動(スクワット+スロトレ+ストレッチ)」

東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 天川 淑宏 先生

○医師から「1日1万歩の真実～自分流の運動のすすめ～」

練馬総合病院 内科 東 宏一郎 先生

## 3.研究会報告

理学療法士の立場からとして、天川淑宏先生からは、自宅でできる運動をご紹介いただき実践的な内容となりました。また、医師の立場からとして、東 宏一郎 先生からは、よく言われる1日1万歩の根拠とできない方の運動の方法をお教えいただきました。お二人の先生から、時間や機会を作って運動をすることも重要ですが、自宅や職場でもいつでも行える運動が重要であり、運動療法の考え方も変わってきていることを実感しました。

## 4.おわりに

講演会前にも、西東京糖尿病療養指導士による糖尿病を学ぶ企画があり、講演会にも約50人の方々にお集まりいただき、充実した一日となりました。今回は、講演会終了後のライトアップ点灯式はありませんでしたが、会終了後には、綺麗にスカイトワー西東京がライトアップされていました。



## 報告

## 西東京CDEの会主催イベント「糖尿病クイズラリー」

日時:令和元年11月9日(土)

場所:スカイトワー西東京

[当法人会員] 実行委員 八王子山王病院 水谷 健 [理学療法士]

西東京CDEの会では、市民公開講座の始まる前の時間をお借りし、薬・栄養・運動各分野にて日常生活にいかせるようなクイズラリーを行いました。「おくすりクイズ」では、薬の飲み方やインスリンについて基本的な知識の復習問題を解いていただきました。「野菜重さクイズ」では、当会所属メンバーの畑で当日朝に収穫してきた野菜を使い、350gという厚生労働省が1日の摂取目標に定めている重さを当てていただきました。ちなみに参加者の方に選んでいただいた野菜は、お土産としてお持ち帰りいただいています。「おやつカロリークイズ」では、普段店などでよく見かけ、食べたくなるようなお菓子や果物12種をみて、実際のカロリーはどのくらいか学んでいただきました。「運動クイズ」では、おやつクイズの中で普段よく食べるおやつのカロリーを参考に、そのカロリーを消費するにはどれくらい歩けばいいか学んでいただきました。又、参加者ご自身の年齢・身長・体重等の身体的情報と普段の生活スタイルをお聞きし、適した有酸素運動の方法をレクチャーし実際に自身の体で行なっていただきました。クイズを全て終えた方々へ、ヨーヨー釣りを準備しました。立冬翌日の15時過ぎとなると、晴れていても少し肌寒い陽気でしたが、皆様に楽しんでいただくことができました。



## 報告

## 第13回西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

日時:令和元年11月17日(日)

場所:北里大学薬学部

【当法人会員】 緑風荘病院 鈴木 順子 【管理栄養士】

2019年11月17日(日)、「第13回西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー」が開催されました。健康運動指導士や理学療法士の運動職種のみならず、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士など様々な職種の方が参加されました。今回のテーマは「いまだから 糖尿病運動療法のココが知りたい!」と題して、患者さんの指導に結びつけることを目的にセミナーを行いました。糖尿病の治療を取り巻く環境は、薬物療法も食事療法も進歩しているなかで運動療法との相互関係も新たな時代となっています。そこで今回午前の部では、糖尿病治療のアップデートと題し、糖尿病に関する新しい研究や薬物・食事・運動療法との関わりなどを、次に運動療法でおさえておきたい薬物や食事療法のポイントの講演があり、この3つの講義の合間に肩甲骨ストレッチや下肢筋力アップなどのワンポイントエクササイズを行いました。そして、午後の部では実臨床へつなげる実践として「誰もが知っている音楽を使った運動」や「運動療法の見える化とその実践」と題して運動の実技を中心に行われました。参加者の方々も実際に体験し、今後の患者指導へのヒントに繋がったことと思います。



このセミナーの参加者は病院やクリニックだけでなく、保健所や訪問看護ステーションを職場とする方もいます。専門の運動指導を行う職種が不在でも運動指導ができる情報提供の場として、今後も継続していきたいと思います。



- 😊 薬、食事、運動、年々考え方が変わり、再認識することができた。
- 😊 血糖コントロールだけでなく、患者さんの将来について考えることが大切と伺い、大変勉強になりました。
- 😊 仕事で腰痛、膝痛持ちの対象者が多いので椅子に座っての運動を具体的に提供できると思います。
- 😊 体操を行うことで唾液が出てきた。簡単で顔のエクササイズにもなるので外来で一緒にやってみたい。
- 😊 あまり運動をしていないという高齢者が多いので、動く気持ちいい、そしてどこに効いているのか、どのような効果があるのかを伝える大切さを学びました。
- 😊 実技体験でき、身体を動かす楽しさ、つらさを理解できた。いくら運動をしても効果のない運動では体を壊すので、効果ある運動を理解し患者にも指導したい。
- 😊 楽しく、グループワークでみんなで作っていく感じが良かった。音楽を使うと運動しやすく、ラジオ体操以外でも工夫すれば運動になることがわかった。

## 報告

## 第44回東糖協多摩ブロック糖尿病教室

日時: 令和元年11月30日(土)

場所: ぽっぽ町田

令和元年11月30日(土)14時~16時、ぽっぽ町田第一会議室にて、第44回東糖協多摩ブロック糖尿病が開催されました。今回のメインテーマは「糖尿病食事療法のコツ」として、前半の1時間で町田市民病院 糖尿病・内分泌内科部長の伊藤聡先生と、武蔵野赤十字病院 管理栄養士の原純也先生にご講演いただきました。

後半は、「ぜひ聞きたい! あんな疑問? こんな疑問? コーナー」として、お越しいただいた方々からのアンケートをもとに、座談会形式で医師の伊藤聡先生、栄養士の原純也先生、さらに、薬剤師の薬樹薬局 野口幸司先生、看護師の町田市民病院 横内沙織先生にコメンテーターとして質問にお答えしました。

先生方からは、食事の適正量や食べる順番、年末年始の食事の工夫など、興味深い内容をお話いただきました。町田市での開催は初めてでしたが、参加者は35名で大変盛況な会となりました。



## 報告

## 第37回武蔵野糖尿病研究会

日時: 令和元年12月14日(土)

場所: 三鷹産業プラザ

[当法人業務執行理事] 代表世話人 かの内科 菅野 一男 [医師]

令和元年12月14日(土)三鷹産業プラザにて「第37回武蔵野糖尿病研究会」が開催されました。講演1では東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 西村理明先生より「CGMを用いた糖尿病治療の展望」と題して、低血糖のない質のよい血糖コントロールを目指す重要性を講義頂き、最新のCGM・FGM機器やその活用法、そして現在使用されているインスリン製剤のご使用経験を踏まえ適切な薬剤選択について紹介頂きました。西村先生のメッセージとして、血糖値をただ闇雲に下げる時代は過ぎ去り、これからは日本で使用可能なCGM・FGMなどの最新機器を有効活用し低血糖を起こさない質の高い血糖コントロールを目指していく事的重要性を指摘されました。

講演2では私菅野より「GLP-1製剤の新たな可能性」と題して、海外用量の使用が認められたリラグルチドの使用経験を4症例提示し、罹病早期にGLP-1受容体作動薬を使用する意義と、罹病早期でない症例でもリラグルチドの増量により血糖と体重の改善が期待できる事を紹介致しました。また、SGLT-2阻害薬やGLP-1受容体作動薬はADAのガイドラインでも心血管疾患の既往のある症例での優先的使用を促されており、血糖値改善効果以外の多面的な効果から、将来的な合併症発症予防に寄与することが期待されています。当日は医師、看護師、薬剤師、栄養士等、46名が参加し、活発な意見交換もなされ大変有意義な会となりました。

なお、次回第38回武蔵野糖尿病研究会はテーマを「糖尿病性腎症とその進展予防」と題し、令和2年12月19日(土)三鷹産業プラザにて開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。





## 第23回日本病態栄養学会年次学術集会

令和2年1月24日(金)～26日(日)

国立京都国際会館

[当法人会員]

武蔵野赤十字病院

黒木 智恵 [管理栄養士]

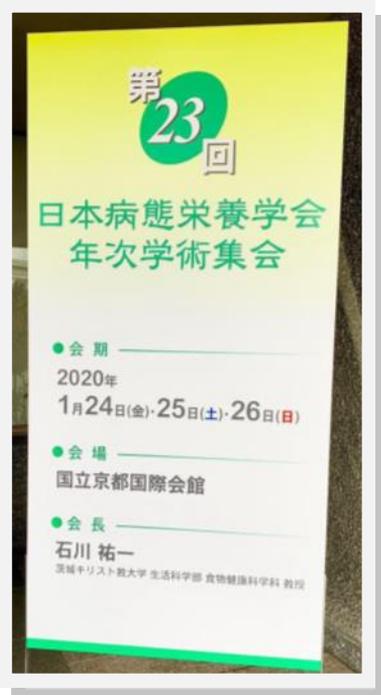
暖冬と言われる2020年。北国出身の私には「底冷えするような冬の京都」と表現するには物足りない…そんな気候の中、「栄養をつなぐ」をテーマに第23回日本病態栄養学会年次学術集会が開催されました。糖尿病をはじめとする各種疾患のみならず、がんや低栄養、地域連携やAIの活用など、例年以上に多岐にわたるテーマがあったように思います。

糖尿病においては、やはり改定された糖尿病診療ガイドライン2019が熱いテーマだったのではないのでしょうか。ガイドラインで大幅改定となった「エネルギー設定」の解釈や考え方について、各種学会の先生方による合同パネルディスカッションでは講演・議論がなされていました。

食事療法に関しては、従来は「標準体重」を一律に用いてきましたが、目標とする体重は年齢や病態によって異なることを考慮して、個別に設定した「目標体重」を基準とすること、と変更されました。また、「身体活動レベル」は「身体活動レベルと病態によるエネルギー係数」へ変更されており、より「個別性」に配慮した目標を設定することが重要であると記載されています。特に65歳以上の高齢者では、BMI22～25kg/m<sup>2</sup>を基準とした目標体重を設定することや、高齢者のフレイル予防の観点からは身体活動レベルより大きい係数を設定してもよいとされています。さらには、栄養摂取比率においても「多彩な条件に基づいて、個別化を図る必要がある」として具体的な目標値がステートメントから削除されました。

今回の改定は、これまでの生活習慣病を背景とした糖尿病だけでなく、昨今の高齢者糖尿病の増加や、フレイル・サルコペニア対策を大きく反映した結果でもあります。超高齢社会を迎えている今、糖尿病診療に携わる私たちは、より患者さんに寄り添い、個々人の食習慣や食嗜好だけでなく、年齢や身体・生活状況を考慮しながら目標を設定し、療養生活を支えていく一助となるよう柔軟な対応が求められます。

また、それぞれの目標設定においては、「一定の幅を持たせる」という側面から、多様性が出てくるであろう患者さんごとの目標や課題を多職種や地域で共有していく力、その仕組みも重要になると感じました。今回改定されたガイドラインを改めて読み直し、その意図や意義を考えるよい機会になりました。今回の学会で学んできたことや感じたことを日々の療養支援にいかしていきたいと思えます。



読んで  
単位を  
獲得しよう

答え 3, 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

乳酸アシドーシスを引き起こすのはビグアナイド薬、頻尿を引き起こすのはSGLT2阻害薬である。ビグアナイド薬は消化器症状も引き起こすし、SGLT2阻害薬で皮膚症状の報告もあるので2と5は正解である。各薬剤の代表的な副作用について知っておくことは療養指導上大変重要なことなので、ぜひ整理して覚えておいていただきたい。



## 研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
  共催・後援事業
  その他

 第5回日本糖尿病理学療法士学会 症例報告学術集会

 申込必要

テーマ：『食事と薬物と運動療法のInteraction』

開催日：2020年3月15日（日）9：00～16：40

場所：北里大学病院北里研究所 薬学部1号館（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 ほか）

参加費：2,000円

申込：協会会員の方は、日本理学療法士協会マイページよりお申し込みください。その他職種と非会員の方は、日本糖尿病理学療法学会HPよりお申し込みください。（3/6締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

 第1回 Meeting place Type1

 申込必要

テーマ：『1型糖尿病の会～1team at 西東京～』

開催日：2020年3月28日（土）18：00～20：30

場所：調布市文化会館たづくり（京王線「調布駅」中央口下車 徒歩4分）

参加費：500円 申込：FAX：042-369-4620（3/21締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第19回研修会

 申込必要

テーマ：『高齢者のインスリン療法・血糖モニタリング～医療・介護連携なども踏まえて』

開催日：2020年3月31日（火）19：20～21：00

場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください。（3/22締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 2020年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

第17回 西東京教育看護研修会

第5回 西東京臨床検査研修会

第17回 西東京病態栄養研修会

第5回 西東京運動療法研修会

第17回 西東京薬剤研修会

フリーコース

※教育看護研修会につきましては、本会場もしくはサテライト会場のどちらかを選択いただけます。

開催日：2020年7月12日（日）9：25～16：55（開場9：10）

場所：北里大学薬学部 白金キャンパス

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/10～5/24] 6,000円 / 通常[5/25～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2020年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」よりお申し込みください。（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は＜第1群＞は、自分の職種である研修会に参加した場合のみ取得できます。また＜第1群＞と＜第2群＞の単位はどちらか一方のみ認められます。

※フリーコースで取得できる単位は、西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位(10単位)のみとなります。

## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局  
〒185-0012  
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802  
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478  
https://www.cad-net.jp/  
Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



新型肺炎コロナウイルス感染拡大のニュースが毎日流れています。予防には手指衛生が効果的のようですが、報道でも多くアナウンスしているため、今年はインフルエンザが例年より少ないとか。手指衛生の大切さを実感しつつ、医療従事者は手洗い習慣があると思いますが、患者さんとも日々確認するようにしています。この会報が発行される頃には少しでも落ち着いていると良いなと思っております。（広報委員 永田 美和）